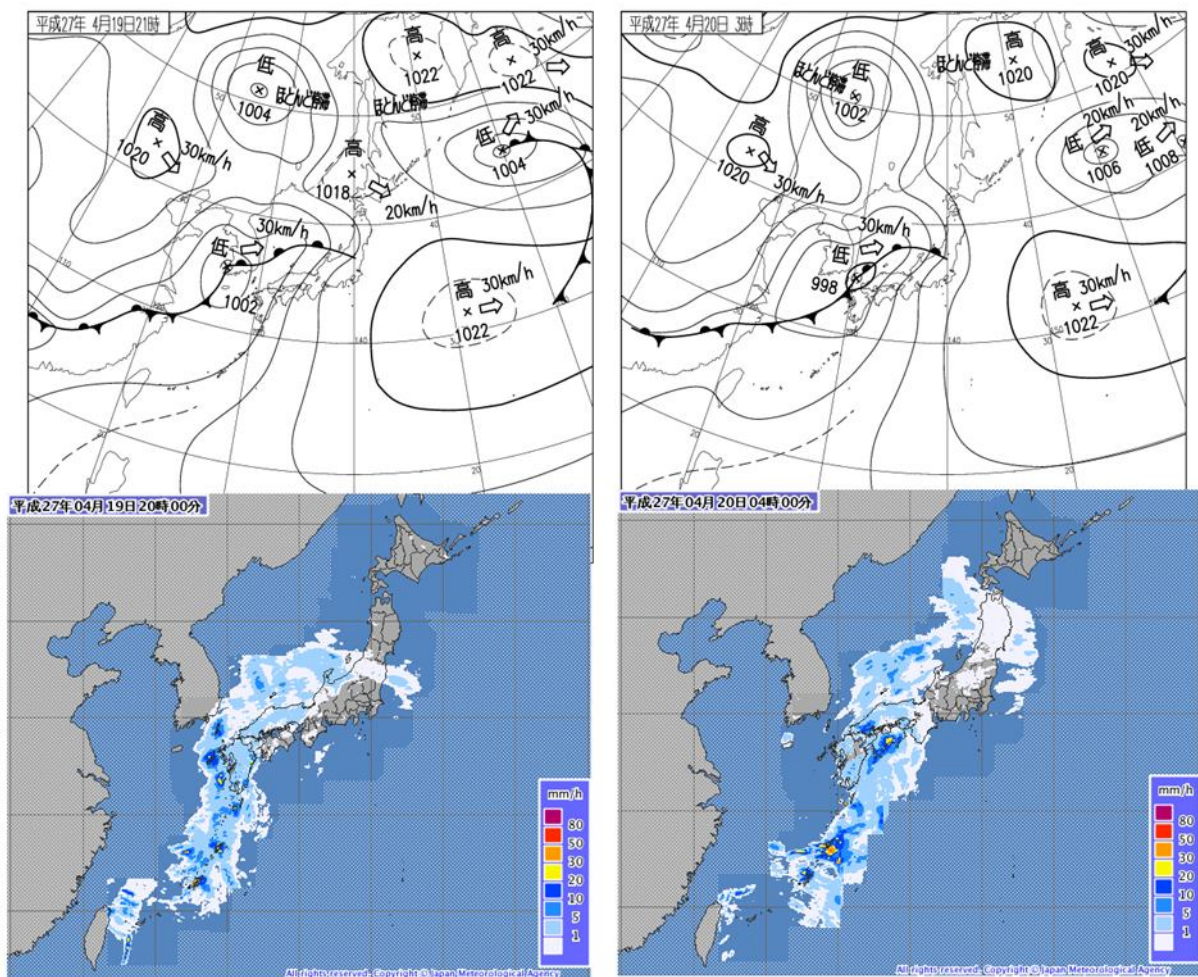


「雨雲と低気圧」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

雨雲と低気圧・・・両者には密接な関係がある。低気圧の発生には、複数の要因がある。日本列島付近の温帯域では、通常、北側の寒気と南側の暖気がぶつかりあって、前線をつくり、その前線上に低気圧が発生する。前線や低気圧の「正体」は雨雲(乱層雲、雄大積雲、積乱雲、稀に雨層積雲など)である。「低気圧=雨雲」と言い切ってしまうと誤りなのだが、それに近い関係にある。5年生の「天気の変化」の学習では、雨雲(低気圧)の動きと、日本列島の天気の変化の関係を考えさせることが、重要なねらいの一つといえる。

1学期(春～初夏)は、西から低気圧と高気圧が交互に去来し、この学習をするには、誠に都合の良い気圧配置の日が多い。そこで、授業の前日～当日の天気図と雨量解析図を印刷して配布することにした。



「天気図と雨量解析図」 児童配布資料の例・気象庁のホームページより作成

教科書にも同じような図版は載っている。しかし、それは過去の一気象状況の例に過ぎない。一番大切なのは、学習者が現在いる場所の、実際の気象状況を観察しながら考えさせることであろう。従って私は、できるだけ近い過去の資料を配布し、その資料から考えさせることにしている。天気図と雨量解析図はほぼ時刻が一致している。約8時間の経過を表している。この資料「低気圧の動き」と「雨雲の動き」の関連について、各研究所(班)に考えさせてみた。この方法は、実際に直近に体験した天候を思い出せる点、また、つい最近に見た天気予報の記憶とも一致している点が優れている。子どもたちは、天気図・雨量の図・実際の天気の関係イメージしやすかったようだ。授業の記録が残っているので、いずれまとめてみたいと思っている。